

浜嶋です。

おはようございます。

昨日の研修会でちょっといいなあと思ったことをお伝えします。

1. ボーイスカウトの活動の特徴は野外活動だというが？

少し深い話だなあと思ったこと。

自然の中で活動することは、四季の変化や自然の恐さ等を体験できることがいいことだ。壮大な景色、山、川、海などいつでも、様々に変化を見せる自然とともにいることが、五感を刺激し、素晴らしい体験になる。動物、植物とのふれあいもすばらしい。

私は、このような屋内では感じられない体験が、自然の中でできることが素晴らしいと考えていました。

今回、

「自然の中は、動植物すべての命と向き合う活動である。これは知っているだけではできないことだ。野外活動の中で、私たちはキャンプでこれを体験することができる。これがボーイスカウトの活動である」

という説明がありました。「命と向き合う」という言葉が印象に残りました。キャンプでは、食べ物、火を使うこと、いろいろな形で動植物の命と向き合っていることを実感します。指導者はそれを認識させることができるとと思われます。ということで、自然との関わりを少し深く考えることができました。

2. 隊長の話

隊長がスカウトに伝えたいことを話す場は、全員が揃う3つの場しかありません。

- ・開会儀礼及び閉会儀礼
- ・スカウツオウン（主にスカウトが行うものであるが指導者がやってもいい）
- ・ヤーン（夜話）

3つしかないので、この場を有効に使わないといけない。

隊集会の計画を立てるときに、プログラムを先に考えて、そのあとで教育内容を考えていはないだろうか。BVS隊の場合は、そうなっていることが多いです。

本来は、教育活動として「ちかい」と「おきて」をどのようにスカウトに伝えるかを考えて、それにあったプログラムを考えるべきであるという話がありました。

何を伝えたいかをリーダー会議で話し合って決めておけば、プログラムの内容がぶれなくなります。

何を伝えたいかが決まっていれば、開会儀礼や閉会儀礼のときの隊長挨拶は、その時の

教育内容を伝えることができます。プログラムの説明ではないですよ。伝えたいことをお話しします。

隊長が伝えたいことを伝えるためには、全員と話ができる場を利用しなければ、教育活動にはならなくなってしまいます。そのような教育をスカウトにしなければ、ボーイスカウト活動として寂しいことになります。保護者も感動しないでしょう。

参加したBVS隊のリーダーと話しました。今、隊長挨拶はプログラムを決めてから事前に決めてリーダー間で確認している。しかし、企画段階で教育内容を決めるべきだ。そのような計画書様式を作ったばかりです。もうちょっとだね。改善しようということにしました。

また、ヤーンと同じことになりますが、隊集会で必ずお話を組み込もうという方針です。前回は難しい話になってしまったので、わかりやすくして続けてもらったらいいと思います。

隊長と同様に団委員長が保護者や指導者に伝えたいことは、

- ・団行事（総会、報告会、スカウト祭）などの団委員長挨拶
- ・団メール

で伝えています。

3. 海外のセーフ・フロム・ハームと「おきて」

イギリスが、セーフ・フロム・ハームの導入で、ボーイスカウトの信頼感が高まりスカウトが増えたという説明がありました。

オーストラリアでは、指導者に登録するには、「無犯罪証明書」が必要だという社会的な状況があります。

どうして必要なのか。それは、犯罪が多いためです。だから、スカウトと指導者が1対1で会うことは許されていません。

ボーイスカウトが、このような社会問題に対応できる活動を行っていることで社会から信頼されるようになったということです。信頼される活動を行えば、信頼される人になっていく。

「おきて」の1つ、「スカウトは誠実である」とは、

「スカウトは信頼される人になります。真心を込めて、自分のつとめを果たし、名誉を保つ努力をします」ということです。

誠実であれば信頼関係が生まれることになります。

4. 「ちかい」と「おきて」は、スカウト活動（スカウト教育法）の要である

今一度考えましょう。「ちかい」と「おきて」を隊活動、班（組）活動に組み入れることを考えましょう。

「ちかい」と「おきて」の実践は、すなわち、隊集会に「ちかい」と「おきて」を組み込めばいいんですね。

教育内容を先に考えて、それをもとにプログラムを考えましょう。隊長挨拶では、スカウトが気付くように、伝わるように話をしましょう。また、スカウツオウンやヤーン（お話）で補足しましょう。

スカウトの顔を見てごらん。隊長の気持ちは伝わっているかな？

以上

私の目標と実践

～保護者の理解が深まれば、2団が変わります。全員でスカウトを育てよう～